奈良県の地震

【奈良県の地震活動図】
震央分布図と断面図
【奈良県地震概況】
【地震一口メモ】
「南海トラフ地震に関連する情報」について

「奈良県の地震」は、奈良地方気象台における地震調査の一環として県内の地震活動状況を的確に把握し、きめ細かい防災対策に資するため1989年１月より月１回発行しています。「奈良県の地震」は、上記の項目で構成し、適宜地震解説資料や用語解説等を掲載します。

※本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。
また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体、及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものを掲載しています。

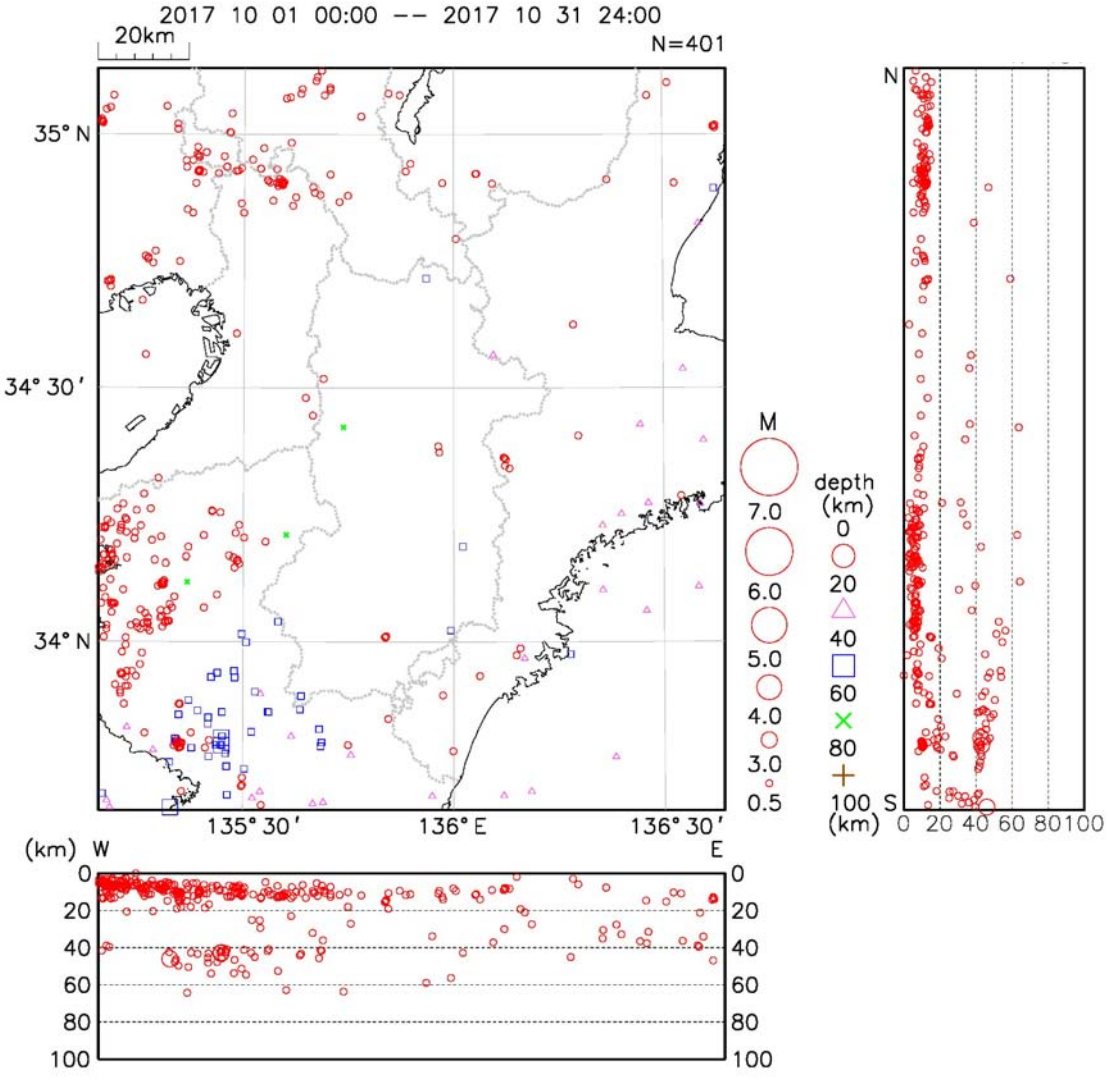
※この資料の震源要素及び震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。

奈良地方気象台
2017年10月

【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

地図範囲内に分布している震央の南北方向の断面図(右上)と、東西方向の断面図(左下)で、地震の垂直分布を表しています。これにより、マグニチュード(M)の大きさと深さによる地震発生状況が把握しやすくなります。



【奈良県地震概況】

奈良県内で 10 月に震度 1 以上を観測した地震はありませんでした。

【地震一口メモ】

～「南海トラフ地震に関連する情報」について～

平成 29 年９月 26 日、中央防災会議防災対策実行会議「南海トラフ沿いの地震観測・評価に基づく防災対応検討ワーキンググループ」より、とりまとめの報告がありました。この報告を受け、気象庁では、南海トラフ地震に対する新たな防災対応が定められるまでの当面の間、『南海トラフ地震に関連する情報』を発表することとし、11 月１日から運用を開始しました。本情報の運用開始に伴い、東海地震のみに着目した情報（東海地震に関連する情報）の発表は行いません。

『南海トラフ地震に関連する情報』は、下表に示すように臨時と定例があります。『南海トラフ地震に関連する情報（臨時）』は、南海トラフ沿いの大規模な地震発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと判断したときなどに発表します。この情報が発表されたときは、家具の固定、避難場所・避難経路、家族との安否確認手段の取決め、家庭における備蓄の再確認をお願いします。また、本情報を発表していなくても、南海トラフ沿いの大規模地震が発生することもありますので、日頃からの地震対策を継続することも必要です。

南海トラフ地震に関連する情報の発表状況や南海トラフ周辺の地震活動は気象庁ホームページ（http://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nteq/index.html）でご覧になれます。

表　南海トラフ地震に関連する情報

情報名	情報発表条件
南海トラフ地震に関連する情報（臨時）	○南海トラフ沿いで異常な現象※1が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合 ○観測された現象を調査した結果、南海トラフ沿いの大規模地震発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと評価された場合 ○南海トラフ沿いの大規模地震発生の可能性が相対的に高まった状態ではなくなったと評価された場合
南海トラフ地震に関連する情報（定例）	○「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」※2の定例会合において評価した調査結果を発表する場合

※１：南海トラフ沿いでマグニチュード７以上の地震が発生した場合や東海地域に設置されたひずみ計に有意な変化を観測した場合などを想定

※２：南海トラフ全域を対象として地震発生の可能性を評価するにあたって、有識者から助言いただくために開催

お　知　ら　せ

平成29年度　奈良県
防災気象講演会

とき：12 月 16 日(土)13 時 30 分～16 時　（12 時 30 分開場）
ところ：奈良市ならまちセンター（奈良市東寺林町 38）
詳しくはホームページをご覧ください　URL：　http://www.jma-net.go.jp/nara/